

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
カラーコーディネート Color Coordination		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(ファッションビジネス関連科目)	ファッションビジネス関連科目
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
阿部芳子	福祉棟 3F	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
色彩の基本的な理論を学び、ビジネス社会や生活で生かせるようにする。①産業における色の役割を理解する。②色彩の知識を持って実践力をつけることを会得する。				
授業の目標				
ファッションビジネスでは、①色を作るテキスタイル産業 ②色を選ぶアパレル産業 ③色を（お客様に）見せるリテール産業について理解し、④さらに仕事や生活で役立つ配色を考え、カラーコーディネーターの仕事についても学ぶ。⑤色彩について、知識とセンスを身につけることは、今、世界に通じる感性として求められ重要であることも説明できるようになる。				
授業の方法				
講義中心。テキストとカラー見本で基本を理解し、資料と色彩運用技術で色彩実務スキルをアップ、さらに提案や調査による提出物で、色彩の理解と着実な色彩運用能力を高める。				
学習の成果（学習成果）				
①ファッション色彩の基礎知識、技術を学ぶことでアパレル産業、小売業などでアシスタント的業務につき、ある程度の自己判断をしながら、色彩に関する業務を遂行することができる。②商品企画・デザインに関する業務であれば、商品色の原案を目的に沿って提示できる程度の色彩技術（スキル）を持つことができる。③販売関連業務であれば店頭で、色彩的な視点から商品陳列、展示できる技能・技術を持ち、接客では、個々のお客様に対し初歩的なカラー・コーディネートをアドバイスすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション 色のはたらき ①産業における色彩 ②ファッション産業と色彩			
第2回目	色の基礎知識			
第3回目	色の分類 有彩色 無彩色 色相環			
第4回目	色の明るさ 強さ トーン トーンの種類			
第5回目	色の見え方 感じ方			
第6回目	色から受けるイメージ 配色テクニック			

第7回目	配色と色彩調和	自然な調和、流行配色、まとまりのある配色	メリハリのある配色
第8回目	配色技法	ファッションと色彩①	イメージとカラーコーディネーション
第9回目	配色技法	ファッションと色彩②	ファッション産業における色彩を取り扱う姿勢、情報としての色彩 [レポート]
第10回目	日本の色	古典的な配色ーかさね色目	陰陽五行と冠位十二階 雅 粹 バサラ
第11回目	パーソナルコーディネーションと色彩、	色・素材の質・形との関係	[ドレーピング体験]
第12回目	色が人に与える影響	カラーセラピー	
第13回目	商品企画における色彩計画、	カラーコンセプト、配色と色の見え方	
第14回目	生活環境と色彩	インテリア・エクステリア・プロダクツ・メディア	
第15回目	販売における色彩計画	VMDと色彩	ディスプレイやファッションへの応用 [レポート]
事前・事後学習	事前：生活の中にある沢山の色に興味を持ち楽しむ。 事後：学んだことを直ぐに試すことを望む。		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	20%	遅刻、欠席がなく、授業に集中し、与えられた課題を自ら考え、感じたり表現できているか評価する。
	レポート	20%	自らの考えでまとめ、内容にあった提出物となり、期限に提出されたか評価する。
	調査報告書		
	小テスト	20%	限られた内容が十分に理解されているか、評価する。
	試験	40%	色に見え方、色のはたらき、色彩調和、色彩心理、色彩と生活、効果など基本的なことが理解されているか。 S評価基準=90-100
	発表内容（態度含む）		
	その他		
教科書と参考図書			
教科書： 色の教科書（Gakken） プリント配布 トーナルカラー 65色 参考書：ファッション色彩Ⅰ・Ⅱ（ファッション色彩能力検定試験準拠、 FASHION COLOR（財）日本色彩研究所、			
履修上の留意点・ルール			
日頃、色に関心を持ち、積極的に授業に参加することを望む。クリアファイルA4持参。色鉛筆準備。検定試験は別途説明する。			